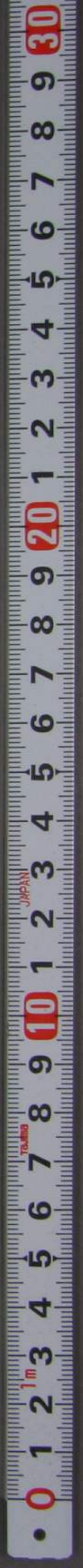


3111



114
A 2101

前日金祿公債
証書五年屆還
二十五年迄抽
籤法ヲ以テ償却
スルノ議決アル當
リ具視其一年
又二年ヲ延期
シ其一二年分
以テ華士族ニ恩
賜シ華士族為
ニ就産教育ノ
資本トシテ
發議セシ閣議
ハ他日適當ノ
時機ヲ以テ更ニ
資本ヲ發シ前
件保護ノ方法ヲ
施行ス(シト云フ
以テ姑ク後議



郷紳
祿券ノ令ヲ下スノ日ニ於テ廟議既ニ華
士族授産ノ處分ニ及ニ他日適當ノ機會ヲ得テ
大ニ救護ノ方法ヲ設クヘキニ決定シタリ今茲
起業公債ヲ募リ其目的ハ既ニ世ニ公布ス而ノ
開墾歸農ノ議方ニ地方官ニ垂問セリ然ルニ授
産ノ措置實ニ容易ニ非ス且ツ祿券ヲ下付スル
ノ時ニ際シ廢藩以來華士族ヲ處分スル最終ノ
期トス今宜ク深ク廟議ヲ盡シ完全ノ方法ヲ得
テ以テ前日ノ議ヲ終フヘシ是レ方今ノ一大事

天
正
十
一
年
四
月

ニ付シタリ是各
位ノ知事ナリ其後
華族ニ於テ特旨
ヲ以テ祿券發行
ノ年ヨリ十五年ヲ
期三年三万八千
圓ヲ宮内省ヨリ
恩賜セテ頼テ
以テ部長局學習
院十五銀行ヲ創
立スル等ノ資本
トシ華族ノ教育
生産ヲ略ホ統
緒ニ就カシムル
ヲ得タリ獨リ士
族ハ未タ雨露ノ
澤ヲ被ムルニ至
ラス

件タルヲ以テ別冊意見書ヲ具ヘ閣議ニ付ス

明治十一年七月

右大臣 岩倉具視

村彦十

當時布達精神
ハ專ラ士族ノ産
ヲ得ルヲ望ム在
リ而シテ惜ムラ
クハモ其成功
ヲ見ルニ至ラス

明治四年廢藩ノ後士ノ常職ヲ解キ政府ハ舊士
卒ノ一代限抱ノ者ヲ除ク外士族ノ名稱ヲ與ヘ
其舊祿ヲ大藏ヨリ支給セリ同年十二月華士族
農工商ノ職業ヲ營ムヲ許シ六年十二月士族ノ
資本無キヲ以テ營業ノ志ヲ得サルヲ恤レシ家
祿百石未滿ノ奉還ヲ許シ其農牧ヲ願フ者ハ官
地ヲ拂下クルヲ許セリ七年八月家祿奉還ノ士
族公債証書ヲ典賣スルニ格外低價ナルヲ恤レ
シ証書高百圓ニ就キ現貨八十圓ヲ以テ政府ニ

金祿公債証書ノ已ニ
 各人ノ所有ニ歸シタル
 者ヲ其抵當賣買
 ヲ禁セシメタルハ
 ニ矛盾スト雖モ要ス
 ルニ後日適當ノ處分
 アルヲ待ツカ為メナリ
 若シ將來其處分ナ
 カラシメバ前日ノ禁
 令ハ徒ラニ持主ヲ束
 縛シ其自由ヲ失ハシ
 メタルニ過キズ乃チ

買上ルノ法ヲ行ヘリ然ルニ士族ノ家祿ヲ奉還
 スル者往々業ヲ破リ實産ヲ得ル者甚夕少キヲ
 以テ八年七月ニ至リ奉還ヲ停止セリ其年九月
 米祿ヲ以テ金祿トスルノ令アリ九年八月ニ至
 リ明治十年以後家祿ヲ以テ公債証書トシ一時
 下賜フノ布告アリ又其妄リニ典賣シテ家産ヲ
 蕩破スルヲ防ク為メ當分抵當賣買ノ約ヲ結フ
 一ヲ禁止シタリ蓋シ時機ヲ以テ適當ノ處分ヲ
 設ケ然ル後ニ始メテ其禁ヲ解カントスルナリ
 是ヲ辛未以来今日ニ至ル迄政府華士族ヲ處ス

村彦十

害アリテ効ナ
 キノ法タリシヲ
 ヲ免レズ

ルノ沿革トス
 抑華士族已ニ其常職ヲ解クノ後各生産ヲ計コ
 トヲ為サ、ルニ非ス然ルニ華族ハ素ヨリ常祿
 ニ優ナルヲ以テ粗ホ統理ノ緒ニ就キ各其資産
 ニ食ム一ヲ得ルニ至ルモ士族ハ其門閥大家ヲ
 除ク外資本已ニ少ナク其産ニ就キ業ヲ執ル者
 十中ニ二三ヲ得ヌ明治六七年ノ經驗ニ据ルモ
 ハ其秩祿公債証書ヲ所有スル者擧ケテ之ヲ蕩
 盡シ一轉シテ窮民トナリ再轉シテ兇民トナル
 者比々皆是ナリ

嚮ニ政府ハ祿券ノ公布ヲ發スルヨリ士族授産ノ處分ニ於テ既ニ廟議ノ在ルアリ方ニ今金祿公債証書ヲ付與シ賣買ノ禁ヲ解クヘキノ時ニ當ル是ヲ辛未以來士族處分最終ノ期トス今果シテ証書ヲ付與シ各個ノ自營ニ任スルニ就キ何等ノ結果ヲ現スル歟未タ知ルヘカラス是レ政府慈仁ノ道ニ於テ宜シク深ク議ヲ盡サ、ルヘカラス

今之ヲ詳論スルニ政府ノ士族ニ於ルハ少恩トナスヘカラス蓋シ舊政府亡ヒテ新政府代ルノ

際士民其時ニ遭遇シ多少産ヲ失ヒ業ヲ破ル者無キヲ能ハサルハ勢ヒノ必然ナリ況ヤ封建ヲ廢シ郡縣トナシ兵制ヲ一變ノ徵兵令ヲ行フ此無前無後ノ大改革ヲ為スニ當テ譬ヘハ猶大ニ水利ヲ導ク氏ハ墳墓ヲ毀テ耕田ヲ没セサルヲ能ハサルカ如シ然ルニ政府ハ猶華士族ノ舊祿ノ幾分ヲ以テ其養料ヲ存シ一億數千萬圓ノ巨大ナル數額ヲ以テ公債トナシ其利息ヲ付シテ漸クニ債本ヲ償完セントス故ニ政府ノ士族ニ於ルハ少恩ニ非サルナリ但タ其處置方法ニ至

猶ホ未タ盡サレ所アルナリ
士族ノ情况ヲ考フルニ鎌倉以來ノ武士ハ猶馬
ヲ騁セ劍ヲ試ミルノ戰卒タルニ過キサリシニ
徳川氏ノ中葉以後儒學世ニ行ハレ地方ニ學校
アラサルナク士族タル者身文武ヲ兼ルヲ以テ
常職トシ其子弟學問ニ就カサル者ナク父兄ノ
訓ユル所師友ノ導ク所一ニ忠孝節義治國安民
ノコトニ非サルハナク腦漿ニ涵漸シテ幾ント
固有ノ天性ヲ成スニ至リ其中才徳ノ士彬彬輩
出シ諸藩ノ治績間々觀ルヘキモノアリ蓋シ

皇國文運ノ富人物ノ多キ之ヲ史乘ニ考フルニ
未タ享保寶曆以後ヨリ盛ナルハ非ス而シテ其
精英ノ萃マル所合シテ一種ノ政黨ヲ為シ近ク
一新ノ前ニ至テ其精神ト其腥血トヲ犧牲ニシ
テ以テ朝廷ニ盡シ朝廷ヲシテ數年ヲ出ス
シテ曠古ノ大業ヲ成シ文明ノ洪運ヲ開クヲ
得セシムル是レ皆士族ノ力ナリ假ニ我國ニ固
ヨリ士族ナカリセハ我國衰廢ノ景況ハ猶ホ支
那朝鮮ト相伍スルニ止マル氏然モ今日ノ進路
ニ至ルヲ得サルナルヘシ是士族ハ邦國ノ盛

衰ニ親密ノ關係ヲ與フル者ナリ

蓋シ聞ク歐洲ニ中等社會アリ貴族ヲ以テ上等トシ都府ノ人士ヲ以テ中等トシ農民雇工ヲ以テ下等トス現今歐洲ノ景狀ハ史家之ヲ中等社會ノ世ト謂フ其文學政事以テ儒醫代言百科ノ業ニ至ルマテ擧テ中等社會ノ保持運用スル所タリ蓋シ中等社會ハ其精神ナリ凡ソ世ノ文運ハ大抵官ニ非ス農ニ非サル中等社會ノ振起スル所ニ屬シ邦國ノ治体亦大抵上下ノ間ニ媒介繙縫

スル中等社會ノ扶持スル所ニ頼ル輓近支那ノ振ハザルハ即チ其中等社會ノ振ハザルニ由ルト云フ我士族ハ蓋シ一種中等社會ノ良善ナル者ナリ

然ルニ世未タ其藥分アリテ而シテ其毒分ヲ含マサルノ藥劑アラス水火ノ用ハ一日モ欠クベカラス而シテ家ヲ燒キ舟ヲ没スルモ亦水火ナリ

士族ハ己ニ一新ノ盛業ニ遭遇シ樂テ其効用ヲ致タシ以テ報國ノ意ヲ快クセント企望セシニ

豈料ラシ乎俄カニ政府ト邦國トニ向テ為スヘ
キノ義務ヲ失シ其榮耀面目ヲ喪ナヒ加フルニ
産ヲ減シ業ヲ失ヒ饑寒且ツ之ニ及フ曩ニ創業
艱難ノ際ハ引テ室内ニ在リ其守成ヲ樂ムノ時
ニ至テ却テ門外ノ人タルヲ免レス自今ノ後
我四十萬ノ士族ハ果シテ何等ノ景況ヲ現スル
歟果シテ前日國ニ盡セルノ精神ヲ存スル歟其
藥分ヲ奏スルカ將夕其毒分ヲ發スル歟蓋シ各
國恒産ヲ失フノ政黨ノ禍ハ酷烈ヲ極ムルノ例
多シト云

今士族ハ窮困ニ迫リ手ヲ空クシテ觀望シ行旅
ノ暮ニ臨ムカ如ク子ヲ育シ孫ヲ長スルノ計其
出ル所ヲ知ラス縱令猶ホ舊時ノ餘資ニ因リ一
日坐食スルヲ得ルモ膚ヲ剥テ骨ニ至ル早晚飢
寒ノ憂ヲ免レザラントス

此際ニ當リ宛カモ歐洲ノ過激自由ノ說我國ニ
輸入シ非常ノ速力ヲ以テ都鄙ニ浸漸シ而シテ
在野政黨ノ腦髓ヲ刺衝シ相投シ相擁シ其毒分
ハ深ク無形ノ間ニ根株ヲ結ハントス
前ニ已ニ士族ノ過去及現在ノ情狀ヲ述ベタリ

今又未来ヲ想像スルニ政府ハ今ニ及テ適當ノ
處置ヲ以テ保護ノ方法ヲ施ス氏ハ猶ホ其過半
數ヲ得テ純良ノ徒タラシメ以テ其藥分ル効
用ヲ收ムヘシ果シテ然ラハ此守成文治ノ際ニ
當リ以テ文明ヲ負擔セシメ以テ百科ヲ興起セ
シメ大ニシテハ國本ヲ固クシ小ニシテハ民業
ヲ進ムルヲ一新創業ノ際ニ優ルヲアル氏而モ
劣ルヲ無カルベシ蓋シ士族ハ其積世涵養ノ力
ヲ以テ其精神以テ百科ニ進ムニ足リ其志行以
テ艱苦ニ耐ルニ足リ其氣力以テ外人ト競争ス

ルニ足ル今ノ現況ニ据ルニ學問百科凡ソ以テ
國ノ事業ヲ進ムベキ者士族ノ性ノ尤モ近キ所
トス東京大學校法理文三部本科ノ現員今姑ラ
ク士族ノ名稱ヲ除キ虚心以テ之ヲ商量スルニ
將來果シテ國ノ文明ヲ扶ケテ獨立ヲ維持スル
者此ノ高尚ナル種族ニ非スシテ何ソ乎此高尚
ナル一種族ヲ除ク外我邦ノ人民ヲ概論スルニ
學問ナク志氣ナク以テ重任ヲ負擔スル者足ラ
ズ蓋シ其ノ能ク進修有為ノ地ニ進ニ外人ト競
争スルニ足ルノ日ヲ待ツハ猶ホ二三十年ノ後

在ルベシ、故ニ我政府ハ、果ノ此高尚ノ氣象アル
種族ヲ失ハズシテ、與ニ共ニ前路ニ進ムルハ、將
来ノ進歩、亦現今ノ勢力ヲ失ハズ、其利少ハ、非
サルベシ、

若シ乃チ之ニ及シ、政府ハ、此種族ノ心ヲ失ヒ、其
窮困陷淪ニ任セ、反對ノ點ニ激進セシメハ、前日
ノ氣節精神ハ、變シテ酷烈ノ毒分ヲ發シ、其禍轉
シテ人民ニ及ハサルヲ得ス、

方ニ今、政府ノ士族ヲ措置スル最終ノ期ニ際セ
リ、士族ノ其世襲ノ祿ヲ變シテ、而シテ公債ト為

シ、各自ノ生計ヲ營ナム、亦其前後轉換ノ日ニ臨
メリ、前途得失ノ機會方ニ今日ニ在リ、此事實ニ
明治一世ノ最要至大ノ事項ナルベシ、今、下項處
分方法ヲ逐議ス、

士族就産資本ヲ地方官ニ附ス

士族ノ貧困ヲ救フ為ニ、其産業ヲ授クルハ、一ハ、
政府慈仁ノ道ニ由リ、一ハ之ヲ勸導シテ善路ニ
趨向セシム、蓋シ政府ハ、宜ク頑ヲ容ル、ノ量ト
窮ヲ恤レムノ作用アルベケレハナリ、夫レ貧人
ハ勝ケテ救フベカラズトハ、經濟家普通ノ説ナ
リ、然ルニ是レ亦槩論シ難キ者アリ、彼ノ素ヨリ
工商ヲ業トスル者ハ、其一業ヲ失フモ、亦他ノ一
業ニ就クテ難カラズ、是其業自ラ因縁アリテ、習
ノ入り易ク、道ノ求メ易キモノアレハナリ、東海

道ノ宿驛脚夫一時業ヲ失フモ政府ノ措置ヲ假
ラズメ、已ニ佗ノ業ニ就キ、其他皮工ノ洋靴ヲ作
リ織工ノ洋布ヲ織ルカ如キ、皆是ナリ、唯ニ族ハ、
實ニ是ニ異ナル者アリ、其世業ノ習フ所、專ラ文
武學問ニ在テ、幾ント天性ヲ成シ、農工商ノ事ニ
於ケル、視テ賤業トナシ、心体俱ニ慣ハザル、譬ヘ
ハ男女其質ヲ同クセザルカ如シ、今世變ニ因テ、
俄カニ其素業ヲ變シテ、新ニ農工商ニ就カシム
ルハ、是レ至テ難キノ事タリ、明治六七年間ノ經
驗スル所以テ之ヲ証スヘキナリ、是レ人類交際

ノ義務ニ在テ、宜ク其困難ヲ憐レシテ、カノ所及
其方便ヲ助クベキニ、況ンヤ政府ニ在テハ、固ヨ
リ當ニ窮ヲ救フノ作用アルベキヲ乎
然ルニ此事之ヲ實際ニ施スル甚タ容易ナラズ
其運用如何ハ、專ラ地方官ノ精神ニ在ルベシ、誠
ニ一縣數万圓ノ資本ヲ與ヘ、專ラ士族授産ノ料
トシ、地方官ニ於テ、能ク上意ノ在ル所ヲ体認シ、
至誠擔當シ、或ハ授産所ヲ興シ、百般ノ工役ヲ設
ケ、或ハ傍近ノ荒地ヲ開墾セシメ、或ハ各地方ノ
生産ニ從ヒ、一種ノ專業ヲ執ラシムル等、其他種

種ノ方法、各地方官ノ見ル所ニ從ヒ、要スルニ凡
ソ窮ヲ訴フル者ハ、之カ勞力ノ道ヲ授ケ、業ヲ求
ムル者ハ、各ノ相應ノ事ヲ賦與シ、又從テ發賣運
輸ノ便ヲ與ヘンニハ、士族ノ過半ハ、必ス頭ヲ低
レテ業ニ就クニ至ルヘシ、其事業試験ノ後ハ、現
ニ附與セントスル所ノ各人ノ金祿公債証書ヲ
募リ、一地方起業ノ株式資本ト為シ、以テ公債証
書持主ヲメ、二重ノ利ヲ得セシメ、浪費ニ至ラシ
メザル等、尤モ地方官ノ意ヲ加フルヲ要スヘシ、
士族業ヲ得産ニ就クノ端ヲ開クハ、下附スル

所ノ金祿公債証書ハ、士族ノ手ニ在テ、以テ資本
ノ助ケタルヘシ、若シ又産業ノ道ヲ得ザルハ、
公債証書ハ徒ニ一時ノ急ニ充テ、之ヲ抵當シ、之
ヲ賣買シ、姦商牙會ノ手ニ落チ、風散雨飛シテ、痕
跡ヲ遺サバルニ至ルヘシ、且ツ全國ノ國計ニ就
テ之ヲ論スルニ、一億數千万圓ハ、少小ノ金額ニ
非サルナリ、此ノ巨大ナル金額ヲ下附スルハ、士
族ノ産ニ就クヲ以テ目的トスルニ非ス、余今明
治六七年ノ經驗ニモ拘ラズ、漫然トメ此ノ巨大
ナル金額ヲ下附シ、士族ノ浪費ニ任放シ、擧テ之

ヲ姦商牙僧ノ手ニ散亂スルニ過キズンバ、是レ
政府ハ、以テ一時ノ約ヲ塞クヘキモ、然レ其固ヨ
リ目的トスル所ヲ達スルヲ能ハズ、此ノ巨大ナ
ル金額ヲノ、成果ナキ極大不廉ナル消費タラシ
ム、是レヲ財政ノ得策トナスヘカラズ、是レ乃チ
就産ノ資本ヲ地方ニ分賦スルノ要用ナル所以
ナリ

然ルニ、此事、将来ニ例行シテ再三ニ至リ、苟モ小
惠ヲ施シテ、以テ士族ヲシテ恩ニ忸レシム、其無
饜ノ希望ヲ長セントスルニ非ズ、蓋シ公債証書

ヲ下附スルニ當リ、彼レノ生計轉換ノ期方ニ今
日ニ在ルヲ以テ、其處置方法亦之ヲ今日ニ舉行
セサルヘカラザレハナリ、此意固ヨリ地方官ニ
諭メ熟知セシムルヲ要スヘシ、

此事、縱令以テ十分ノ効ヲ收ムルニ足ラザルモ、
政府保護ノ恩意ヲ以テ、士族ノ腦髓ニ感蒙スル
所アラシムヘク、廢藩置縣ノ後、士族處分ノ結局
ニ於テ、政府ハカノ及フ所ヲ盡シテ保護勸導シ、
敢テ之ヲ窮途ニ放棄セス、以テ天下後世ニ愧ル
ヲナカルベシ。

工業ヲ勸ム

士族ノ成行キニ任セハ、彼等ハ、工トモ農トモ成ラズ、少許ノ資本ヲ得ルハ、大抵惣井ニ商賣ニ従事シテ産ヲ失フニ過キザルヘシ、蓋シ士族ハ槩ノ商タルニ堪ヘザル者ナリ、今農工ノ中ヲ擇フニ士族ハ寧ロ工ニ就カシメ易キモ農ニ就カシメ難シ、何トナレハ、新夕ニ農民トナルハ、平民ノ他ノ職業ヲナセル者ト雖モ、勢其艱苦勞動ニ耐ヘ難キノミナラズ、且世業ノ農ニ非ザルヨリハ、税納ヲ完クメ、他ニ餘糧ヲ存スルヲ力ノ能ハ

ザル所ナレハナリ、獨リエハ猶ホ士族ノ手ニ及
フ一シ、舊政府ノ時、諸藩士族ノ輕キ者ハ、大抵職
務ノ餘暇ニ工業ヲ營ミタリ、現ニ今士族ノ男女、
工業ニ從事スル者多シ、而メ農ニ歸スル者ハ極
メテ少シトス、故ニ撥産ノ方法ヲ與ヘントナラ
ハ、工業ヲ勸誘スルヲ以テ第一トスヘシ、
工業ノ為メニ、一ツノ困難アリ、現今世態一變シ
テ人生ノ需用多ク外國物品ヲ仰キ、從テ内國固
有ノ工業ハ蚕糸ノ外、大抵衰頽ニ陥ルノ勢アル
カ故ニ、各人工業ニ力食セント欲スルモ、製産ノ

物品其需要ノ途甚タ狭ク、物ヲ賣ルノ人アリテ
物ヲ買フノ人ナク、業價甚タ廉ニシ、一日ノ勞力
ハ以テ數錢ヲ得テ、一口ノ食ヲ求ムルニ足ラズ、
而メ他ノ新起ノ工業ハ、猶幼穉ニ屬シ、未タ習熟
ニ至ラス、故ニ先ツ再三試驗ヲ用井、然ル後纔ニ
實効ヲ得ベキニ其試驗ナル者ハ數倍ノ資本ア
ルニ非サレハ、以テ結果ニ到着スルニ足ラズ、
士族各箇人ノ力ノ得テ辨スヘキ所ニ非ズ、今果
メ之レカ資本ヲ得、授産所又ハ製造所ヲ設ケ、教
師ヲ雇ヒ、及發賣ノ道ヲ便ニスル等、地方官ヨリ

保護ヲ加ヘ其能クカラ勞スル者ヲシテ一日數
錢ノ勞價ヲ得ベキノ道アルニ至ラシメハ實ニ
無量ノ慈悲ナルベシ。

地方科學校ヲ設ク

士族ノ年齢ニ就テ之ヲ大分スルニ其四五十歳
ヲ越ル者ハ大抵陋習ニ慣レ、藥石ノ治ムヘキ所
ニ非ス、此徒亦甚シキ輕重ヲ為スニ足ラズ其壯
年ノ者ハ舊見ヲ固守シ、或ハ橫議政談ヲ事トシ
方向ニ迷フモノ多シ、然ルニ青年ノ者ニ至テハ
幸ニ其生新ナル思想カト世運ノ風潮トニ由テ
陋僻ヲ去リ文明ニ向ヒ、從テ營生ノ道ヲ得ン
ヲ思フ者、十ニ七八ナルモ、奈何セン、都府ヲ除ク
外、地方ニ就學ノ所ナク、以テ日月ヲ曠過シテ、朽

廢ヲ慨嘆セシムルニ至ル、夫レ少年ノ士、思ヲ寄
セオヲ用ユルノ地ナキハ、激昂ノ說、虚ニ乘シ
テ之ニ入り、陷テ不良ノ徒トナル、今縱令地方ニ
百科ヲ備フルヲ能ハザルモ、先ツ農工ノ科ヲ興
シ、士族ヲシテ實學ニ従事スル所アラレムベシ、
且従前、士族ハ高尚廉潔ヲ以テ俗トシ、今ニ至リ、
舊時ノ風習、猶脱然タリ、難キモノアリ、其糊口ノ
計ニ苦慮スルモ、遽カニ衣食ニ汲々タルハ、其恥
ル所タリ、今學校ヲ以テ農工技術ヲ授ケル氏ハ、
其名稱甚タ美ニシテ、其景慕超嚮ノ勢、必ス水ヲ

導キ卑キニ就クカ、如キ者アリ、不知不識ノ間、樂
ニテ科業ニ就キ、公ニシテ世益ヲ開キ、私ニシテ
生計ヲ得ルニ至ラン、
更ニ又慮カルベキモノアリ、地方己ニ學校ナシ、
士族ノ年少、稍志氣アル者、就學ノ便ヲ求メ、争テ
東京府下ニ来リ、陸續相集マル、而シテ都會浮薄
ノ風、先ツ之ニ浸漸シ、徃々無頼ノ徒トナリ、郷里
ニ還ルヲ能ハズ、遂ニ非望ヲ窺覩シテ、以テ世安
ヲ妨害スルニ至ル、今實況ニ據テ謂フハ、府下
ハ匪徒ヲ植ルヲ園畝ト謂フモ、可ナリ、此弊ヲ救

防スルハ、士族ノ子弟ヲシテ就學ノ便ヲ其本籍ニ得セシムルニ若クハナキナリ
學校ノ弊ハ、徒ラニ空理政談ヲ事トシ、或ハ黨派ヲ激シ、物議翕合ノ地ヲ為スニ在リ、然ルニ科學ノ業タルハ、精微密察ニシテ、以テ青年ノ士ヲシテ、其節ヲ屈シ、其研磨嗜好ヲ專ラニシテ、餘力無カラシメ、以テ浮薄激昂ノ習ヲ暗消セシムルニ足ル、故ニ今宜シク專ラ教ユルニ文藝ト農工科學トヲ以テシ、初メニ農工ノ理ヲ教シ、漸クニ實科ニ從ハシメ、且學習シ且力役スルヲ以テ課程

トシ業成ルノ後、退イテ自立營生ノ道ヲ得セシムルヲ以テ目的トスベシ、如此クハ、政談空論ハ之ヲ抑ヘズシテ、自ラ衰退ニ至ラン、蓋シ地方ニ科學起ラズンバ、年少才氣アル者ハ却テ相競テ政談ノ徒トナラン
學校ノ費用ハ、國費ヲ以テ建創シ、府縣稅ヲ以テ保續セシメ、及一縣ニ二三校ヲ置キ及中學ノ正則ニ依ラズシテ、便宜ノ變則ヲ定ムル等、猶後議ニ付ス
此方法ヲ行フニ、士族ノ青年過半數ハ、以テ頑

強ヲ去リ、文明ニ向ヒ、己ヲ立テ人ヲ利シテ、人生ノ康福ヲ樂ムニ至ルベシ、是レ惠而不費ノ處置ニシテ、而シテ士族ノ効用ヲ收ムル、亦實ニ此ニ在ラン

夫レ子ヲ教ヘ女ヲ嫁スルハ、人ノ至情ナリ、今果シテ児曹ノ學ニ就キ業ヲ成スヲ得ルヲ見ハ、其老強ナル者ト云氏、亦必油然トシテ王化ヲ樂ムニ至ルモノアラン、此レ亦間接ノ利ナリ、

嘗テ聞ク、小學校ハ、童男女ニ、日用ノ文字知識ノ初步ヲ教ユルノ所ニシテ、一般人民ヲ

村彦十

シテ蒙昧汚下ナラシメザルヲ以テ目的トスルニ止マル、歐洲ニ在テ、中等以上ノ人知ヲ開導シ、科藝ヲ勸誘シ、富強ノ資ヲナスハ、必ス中學ニ倚ル、故ニ國費ヲ以テ支給スル

ハ、中學ニ於テシ、却テ小學ニ於テセズ佛國官立中學ハ、十所、即チ國費ヲ以テ支給シ、縣費及區費ヲ以テ補助ス、其公立中學ニ百四十二所、區費ヲ以テ支給シ、國費之ヲ補助ス、而シテ政府ノ教育補助金ハ、主トシテ中學ニ分ツ、幸國ニ至テハ、補助金ヲ付スル、專ラ今我文中學ニ止マリ、小學ニ及ハスト云、
部ノ委托金、專ラ小學ヲ補助シテ、中學ニ及ハズ、而シテ中學振ハズ、地方子弟就學ノ地

ナキヲ致ス、我國公立中學十八所ニ止
ハ、即チ科學ヲ教フルノ所ナリ、
中學

村彦
十